

令和3年度 大隅地域入退院支援ルール^①の運用状況について

平成30年1月から運用している標記ルールは、定期的に運用状況の評価・見直しを行っています。
 令和3年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、例年どおりの運用に係る事業実施が難しいと判断したため、年度始めに大隅地域4市5町と県（大隅地域振興局）が協議し、スケジュールの変更がありました。
 しかし、当地域においても新型コロナウイルス感染症の患者発生が続いた影響で中止した事業もありました。

1 会議について

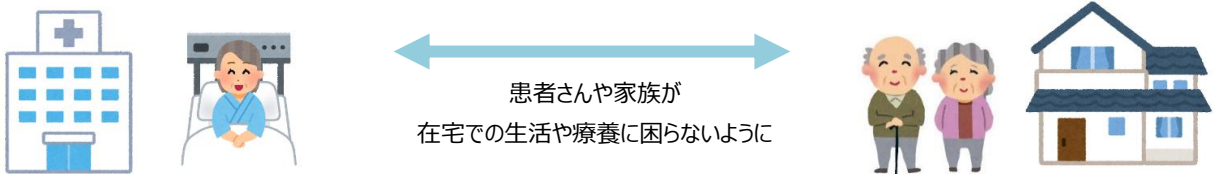
- (1) 実施 → 市町及び県の担当者連絡会（1回/年）
 ※当初2回/年の開催を予定していましたが、2回目は中止しました。
- (2) 中止 → 介護支援専門員協議、医療機関連絡会、医療・介護合同会議
- (3) その他 → 介護支援専門員連絡会(1町のみ)、入退院支援に係るソーシャルワーカーネットワーク会議にて入退院支援に係る様式変更に関する意見を聴取しました。

2 運用状況調査について

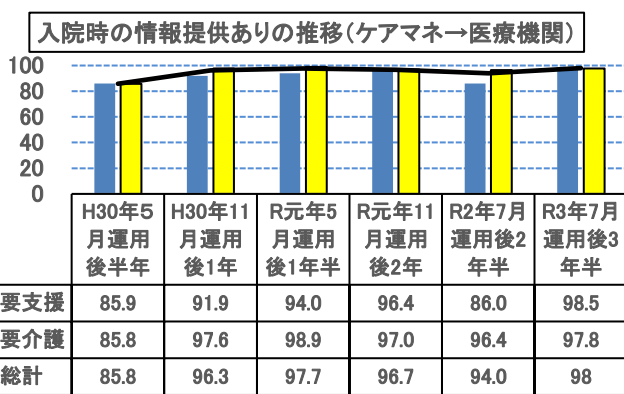
運用開始後3年半の運用状況調査を実施しました！ ※結果の詳細については後述
 → 調査期間：令和3年7月の1か月間の入退院について、8月に調査を実施しました。

3 その他

運用状況調査に併せて「新型コロナウイルス感染症の影響下での連携・対応等に関するアンケート調査」を実施しました。詳細については裏面のとおりです。



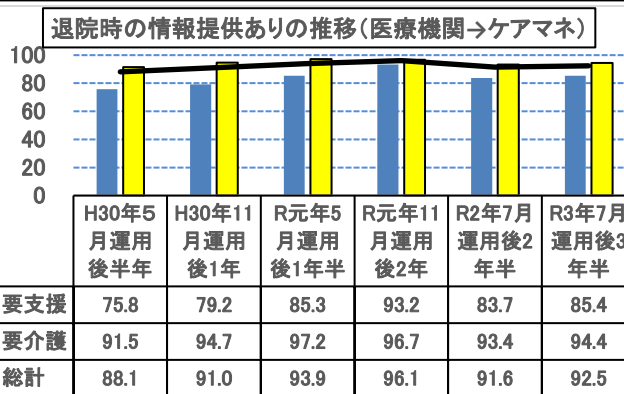
1 大隅地域入退院支援ルール^①の令和3年7月（1か月間）の運用状況調査の結果について



入院時にケアマネージャーから医療機関へ、退院時に医療機関からケアマネージャーへ、患者情報の引き継ぎの連絡があったかどうかの調査結果です。

◎アンケートの回収率は**81.9%**、前回の75.5%より6.4%上がりました。
 →お忙しい中、御協力ありがとうございます。

◎入退院時の情報提供実施率(総数)は、**9割以上をキープ**しています。前回に比べて入院・退院共に微増しています。

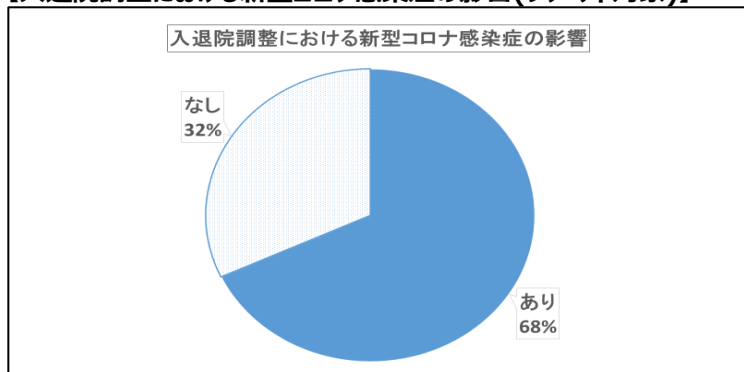


◎要介護に比べて、**要支援の方の入退院時の情報提供実施率が低くなっています**。
 →介護予防・重度化防止のために、要支援など早い時期からの情報共有が必要です。

令和4年度も同調査を実施予定です。御協力をよろしくお願いいたします。

2 運用状況調査に併せて「入退院調整における新型コロナウイルス感染症の影響」について調査しました！

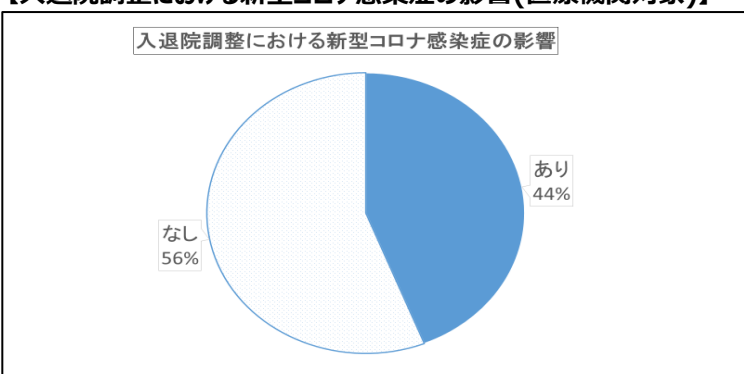
【入退院調整における新型コロナ感染症の影響(ケアマネ対象)】



影響を受けている内容（一例）

- ・在宅での生活を考える際に大事な「本人や家族の意向確認」が充分に行えない。
- ・面会できず、入院時と比較した退院時の変化(ADL等)の情報を得ることの難しさがある。
- ・家族も面会できず、退院後の生活をイメージできない。
- ・コロナ禍前は実施できていた家屋調査等ができず、退院後の環境調整になることがある。

【入退院調整における新型コロナ感染症の影響(医療機関対象)】



影響を受けている内容（一例）

- ・家族やケアマネがコロナにより面会ができない為、主治医からの説明を十分理解できず、現状把握が不十分である。
- ・連携シート等の書面だけでは伝わりにくいことが多い。
- ・電話でのやり取りで正しい情報が伝えられているか心配。
- ・退院前、患者本人の不安がこれまでと比較して大きい印象がある。

【入退院の調整における工夫点】

- ・面談時の工夫（パーテーションを挟んで距離を保つ、検温、15分以内、場所の確保）
- ・状態を直接見ることができない為、媒体を工夫している（オンライン、タブレット利用）
- ・状態確認を窓越しで確認いただく（リハビリ室がガラス張り）
- ・こまめな連絡や経過報告（医療機関とケアマネ双方）

3 事業参加医療機関（HP掲載医療機関）は40か所です（令和3年3月26日現在）

事業参加医療機関は、令和3年3月26日現在**40か所**です。

【鹿屋市】 20か所 【垂水市】 1か所 【曾於市】 6か所 【志布志市】 8か所
【錦江町】 1か所 【肝付町】 4か所



- ※ 参加医療機関及び地域包括支援センターの一覧は、大隅地域振興局のホームページに掲載しています。
- ※ 新たに参加を希望する医療機関、参加医療機関において記載内容に変更がある場合は、当振興局健康増進係（0994-52-2105）へ御連絡ください。

4 最後に・・・

令和4年度も新型コロナウイルス感染症の影響は続きそうですが、医療機関関係者と在宅関係者が工夫しながら情報の引き継ぎ（連携）されていることを広げていきたいと考えています。

本ルールが円滑に運用されることで、患者さんや家族が在宅での生活や療養に困らないようしていきましょう！

